

第 1 章



前置詞の基本を知っておこう!



# 1 前置詞の後ろには名詞や代名詞がくる

前置詞とは文字通り、前に置く詞（ことば）です。

何の前に置くのかというと、名詞の働きをする語句の前に置かれます。

そして、その名詞が文の中でどんな働きをしているのか、名詞が動詞やその他の語とどのようにつながっているのかを示す働きをします。

名詞の働きをする語句とは、具体的には名詞、代名詞、動名詞、名詞節です。

## ① 名詞

I'm **from** Japan.

(私は日本の出身です)

## ② 代名詞

Don't depend **on** me.

(私に頼らないで)

## ③ 動名詞

She solved the problem **without** reading textbooks.

(彼女はその問題を教科書も読まずに解いた)

## ④ 名詞節

He felt regret **for** what he had done.

(彼は自分のしたことを後悔した)

③について、動詞を名詞化する方法にはもう1つ、to不定詞がありますが、こちらは前置詞の目的語になることはできません。

前置詞の目的語はこの4つが基本ですが、次のように形容詞、

副詞、前置詞句を目的語にとることもあります。

① 形容詞

Will you be away **for** long?

(長く留守にしますか)

② 副詞

It's about ten minutes' walk **from** here.

(ここから歩いて約10分です)

③ 前置詞句

A mouse appeared **from** behind the desk.

(ネズミが机の後ろから現れた)

このほか、①には for free「無料で」、for sure「確かに」、②には from abroad「海外から」、③には from under the desk「机の下から」、since after the war「終戦以来」などがあります。

前置詞 + 名詞の働きをする語句



前に・置く・詞(こゝば)

名詞の働きをする語句の

## 2 前置詞句は形容詞句、副詞句、名詞句になる

次の2つの文を見てください。

① The cat **under** the table is Tama.

(テーブルの下にいる猫はタマです)

② The child stroked the cat **under** the table.

(その子はテーブルの下で猫をなでた)

①、②の文のどちらにも、under the table という前置詞句が使われていますが、文中での働きはそれぞれ異なります。

①では、The cat under the table 「テーブルの下の猫」が文の主語です。そして、このunder the table は、直前の名詞 cat を修飾する形容詞の働きをしています。

②では、cat は stroke の目的語になっており、under the table は「テーブルの下に (で)」という副詞の働きをしています。このunder the table は、動詞 stroke を修飾する副詞句です。

このように、前置詞句は形容詞句・副詞句になりますが、さらに名詞句になることもあります。この場合、多くは次の例文のように、主語としての働きをします。

Between eight and ten will be good **for** me.

=From eight to ten will be good **for** me.

(8時から10時までが私には都合がよい)

### 3 前置詞と副詞はこうして見分ける

up、down、in、on など、前置詞の中には同時に副詞の働きをする語があります。

同じ語が前置詞にも副詞にもなるなんてややこしいようですが、実はその見分け方は簡単です。先程述べたように、前置詞は後ろに目的語をとります。

一方、副詞は目的語をとりません。次の例を見てください。

#### ① He isn't **in** this room.

(彼はこの部屋にはいません)

#### ② He isn't **in** now.

(彼は今、席をはずしています)

①では、this room が in の目的語になっているので、この in は前置詞です。

②でも、in の後に now という語がきていますが、意味を考えると、now は in の目的語ではありませんね。したがって、この in は副詞です。

前置詞 ↓  
in this room  
 (目的語)

副詞 ↑  
in now  
 (目的語ではない)



## 第 2 章

# 超頻出の9大前置詞 をマスターしよう!

この章では、とくに使用頻度の高い、  
基本的で重要な9つの前置詞について、  
1つずつ詳しく見ていきます。

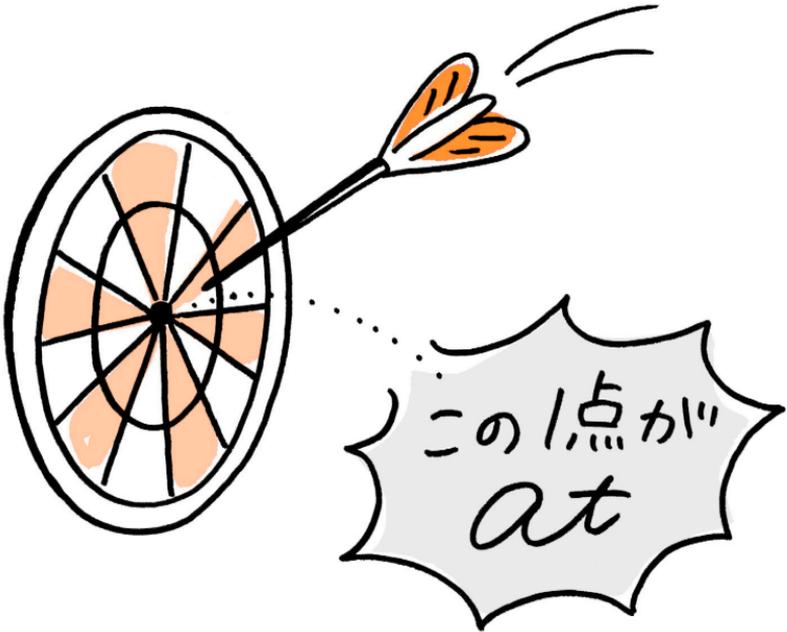


基本  
の前置詞

1

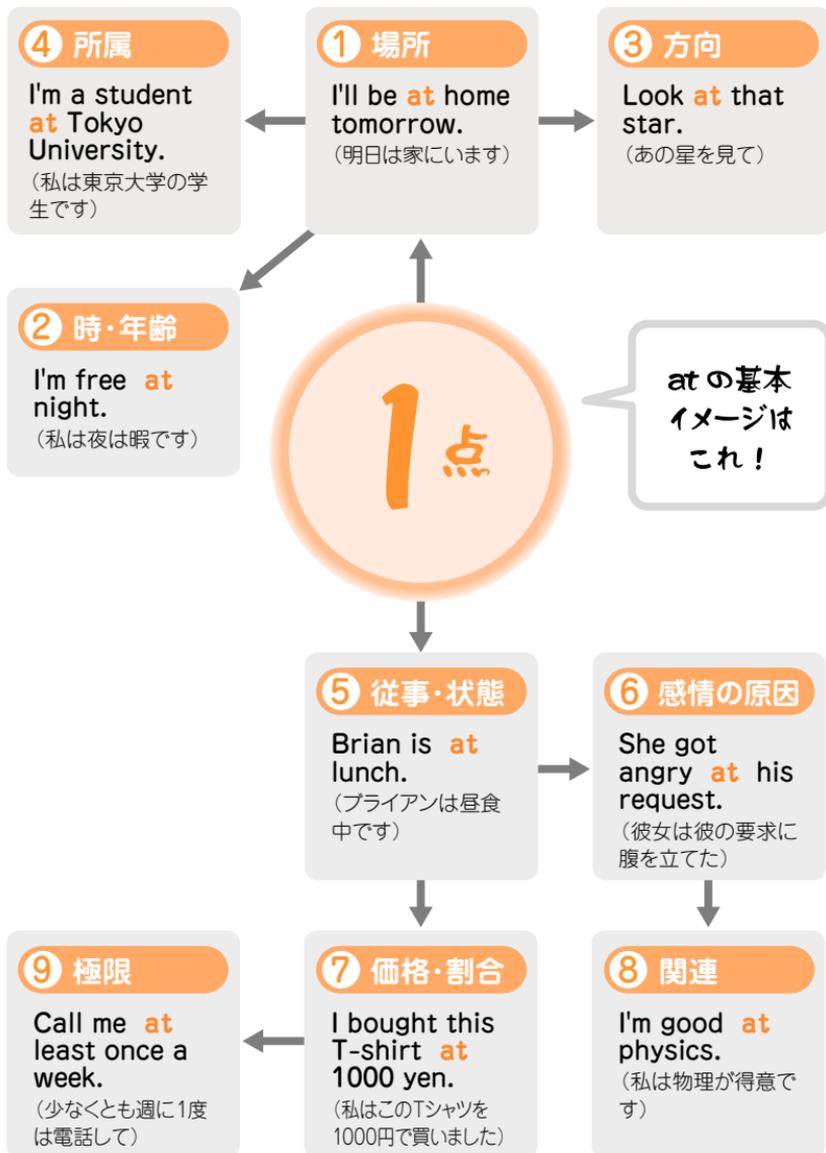
# at

基本イメージを覚えよう！



at は「1点」を表す前置詞です。場所であれば「1地点」、時間であれば「1時点」を表します。方向、所属、状態、感情の原因などを表すときにも at を使います。

# atの使い方はこんなふうに広がる!



## 1

場所を表す **at**

- ① My aunt met us
- at**
- the station.

(伯母は私たちを駅で迎えてくれた)

- ② I'll be
- at**
- home tomorrow.

(明日は家にいます)

- ③ Open your textbook
- at**
- page 25.

(教科書の25ページを開けなさい)

**at** home

場所における「1点」、つまり「1地点」を表します。駅も家も本のページもすべて「点」として捉えられています。

③は、アメリカ英語では、to を用いて Open your textbook to page 25. といいます。日本語では「～ページ」といいますが、英語では at の場合も to の場合も page～ で、page という単語が数字より前にきます。at 25 page としないよう、語順に気をつけましょう。

at に続いて、この後 on、in も、見ていきますが、この3つは時と場所を表す基本の3大前置詞といえます。その使い分けについて、ここで少し触れておきましょう。

時間においても空間においても、まず、とにもかくにも at < on < in の順に広がっていくことを念頭においてください。

時間も空間も  
at < on < in